

「はあ…はあ…師匠う……」

「おいおい、昨日あんなに
抜いてやつたというのに
どうしてこんなになっ
てるんだ？」

「師匠う…」

「師匠のおま○こ○キで抜き抜きしたいい…」

「はあ…仕方ないな弟子の不始末は
師匠の責任だからな…」



カク
カク

ぬちゅ
ぬちゅ

「師匠、自分でおま○こ広げて誘って見せてくださいよ」

ぐい

「なんで私がそんな事を……」

ほら……これで満足か？」

「うはっWえっろW俺が使いすぎて

マン穴開ききちゃってるW

……って師匠パンツ履いてないどころか
タイツも昨日のままじゃないですか」

「……どうせすぐダメにされるからな」

「なんだかんだ言いながら俺専用の肉オナホに

自分からなっってくれるなんて……感謝の気持ちとして

いっぱいナカ出してあげますからね！」

はっ



「わっ♡私の事なんてっ♡
少しも考えずっ♡自分勝手、に、
動きおって♡あっ♡」

「あっ出るっ」

弟子専用肉オナホに出るっ！

ほらもっとマ○「締めて！」

あっ！イクっ！出るっ！

この後このまま
4回中出しした。
なんなら数時間後
またしまくった。

「ツツツ……!!♡♡♡
はあ♡はあ♡♡こ
ま、満足したな……?」

「ちよっ、もう一回っ！」

もう一回だけ出したら終わりますんでっ!」